

公共交通に関する近畿地方の取組が、 優良事例として**国土交通大臣表彰**を受賞！！ ～地域公共交通の確保・維持、活性化に顕著な功績～

この度、「特定非営利活動法人 持続可能なまちと交通をめざす再生塾」の取組が、地域公共交通の確保・維持、活性化に顕著な功績をあげたとして、「地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰」を受賞することとなりましたのでお知らせします。

- 国土交通省では「地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰」により、地域公共交通の確保・維持、活性化に積極的に取り組み、顕著な功績のあった団体を表彰しています。
- この度、近畿地方から「特定非営利活動法人 持続可能なまちと交通をめざす再生塾」の取組が7月13日付で表彰されることになりました。
- 取組内容は以下のとおりです。

持続可能なまちと交通の実現のため、まちづくりや交通に携わる行政、交通事業者、コンサルタントの実務者や地方議員等に対し、調査研究や実地研修などの場の提供を通じた人材育成を多年にわたり行うことで、地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ。



グループワークの様子

なお、表彰式については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を見極めつつ、あらためてお知らせいたします。

受賞者数：全国で6者（別紙名簿のとおり）

<配布先>

青灯クラブ

※同時発表 国土交通省大臣官房人事課

<問い合わせ先>

交通政策部 交通企画課

(担当) 田中、内藤

(電話) 06-6949-6409

令和3年地域公共交通優良団体大臣表彰受賞者名簿

令和3年7月13日

国土交通省

ふりがな 受賞者名	功績概要	現住所
おきごうちくちいきこうきょうこうつうんこうきょうぎかい 沖郷地区地域公共交通運行協議会	交通空白地帯の解消に向けて乗用タクシーを活用した「おきタク」を導入し需要に合わせた負担の少ない運行形態や地域住民の負担金による効率的な財政支出を実現し持続可能なコンパクトパッケージを構築するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	山形県南陽市
えいへいじちようちいきこうきょうこうつうかいぎ 永平寺町地域公共交通会議	公共交通を活用して地域課題の解決を図る発想に基づき車内無人の自動運転システム及び自動運転車両を使用した自家用有償旅客運送「ZEN drive」の社会実装や「近助タクシー」による貨客混載の実施など地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	福井県吉田郡永平寺町
ふじしこうきょうこうつうきょうぎかい 富士市公共交通協議会	「富士市公共交通利用促進条例」に基づく市内共通回数券の導入などにより公共交通の利用を促進するとともにコミュニティ交通の運行について地域住民参加型の持続可能な仕組みを構築するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	静岡県富士市
とくていひえいりかつどうほうじん じぞくかのうなまちとこうつうをめざすさいせいじゆく 特定非営利活動法人 持続可能なまちと交通をめざす再生塾	持続可能なまちと交通の実現のためまちづくりや交通に携わる方々に対し調査研究や実地研修などの場の提供を通じた人材育成を多年にわたり行うことで地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	大阪府大阪市
つるぎちようちいきこうきょうこうつうかっせいにかきょうぎかい つるぎ町地域公共交通活性化協議会	きめ細やかにニーズを捉えた運行計画の導入や病院等、移動の目的地となる施設による外出サポートとの連携によりコミュニティバスの利便性を向上させることで住民の外出回数や観光旅客来訪を増加させるなど地域の地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	徳島県美馬郡つるぎ町
おきなわけんなんじょうし 沖縄県南城市	市役所にハブ機能となるバス停を整備し幹線・支線バスを接続することで市内外への移動をスムーズ化するとともに積極的な情報発信や利用促進を図り利用者の大幅な増加を実現するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ	沖縄県南城市

特定非営利活動法人 持続可能なまちと交通をめざす再生塾

まちづくりや交通に携わる行政、交通事業者、コンサルタントの実務者や地方議員等を対象に、各フィールドの課題解決策の提案を通じた人材育成を行い、持続可能なまちと交通の実現に貢献。

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

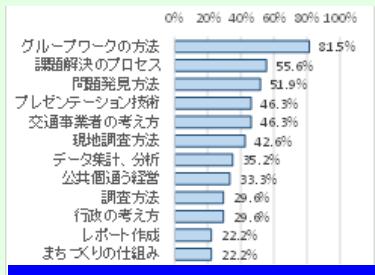
- まちづくりや交通に携わる行政、交通事業者、コンサルタントの実務者や地方議員を対象にプログラムを提供。
- 学識経験者、行政関係者、技術者の有志らが運営に参画しており、ラーニングファシリテーター(LF)として塾生をサポート。
- 塾生は、チームに分かれて課題解決策を議論。議論を通じて各種知識・スキルが身につくとともに、**バックグラウンドが異なる者同士で議論を行うことが大きな刺激**となったとの塾生の声が多い。



グループワークの様子 (LFが参加者をサポート)

2. 創意工夫

- 「基礎編セミナー」及び「アドバンスドコース」を基本のプログラムとして用意。また、行政団体の職員だけでなく、地方議員を対象とした「地方議員対象セミナー」も開催。さらに、統計等の活用方法を教える「技術セミナー」も開催。**10年以上取組を行っており、全コースで延べ1,229名が参加。**
- 「アドバンスドコース」では、実際の自治体・交通事業者に対して課題解決策を提案する場を提供(これまでに**自治体:14団体、交通事業者:12団体(計26団体)に対して提言を実施**)。
- 「再生塾」という名称ではあるものの、一般的な塾のような特定の答えを教える形式ではなく、**参加者間での自由な議論を前提に、課題発見や解決策検討のプロセスを経験してもらう**ことが目的。



受講を通じて身につけた知識・スキル

3. 自立性・継続性

- 人材育成には相当の労力と時間が必要であると考え、着実に継続した活動を行うべく、NPO法人として平成21年に立ち上げた。
- 塾生をサポートするLFの育成にも力を入れており、取組開始時には理事7名がLFであったところ、アドバンスドコース修了生等がLFとなり、現在は18名にまで増加している。

○**自治体や交通事業者への提言により、公共交通の利便性が向上。【提言を通じて、持続可能な交通を実現】**
(例)再生塾の提言を参考にした京都バス株式会社が、京都市交通局と協力し、利用者の利便性向上策(バス停名及びバス車内案内表示の統一による乗継ぎの円滑化等)を実施。**バス利用者数増加の一因となった**(2012年→2018年で約20%増加。)



バス車内案内表示の統一 (左:京都市交通局 右:京都バス)

○また、修了生が所属組織内のリーダーとなり、塾を通じて学んだ技術や交流関係を活かしながら各種取組を実現。(特に、市町村の交通担当者は1~2名ほどであり、相談相手が組織内に存在しないこともあるため、貴重なつながりとなっている。) **【塾生が組織内でリーダーとして活躍し、組織の活性化に貢献】**

(例)・再生塾を修了した塾生同士で、各地の新型コロナウイルス対策事業について情報交換。当該情報を参考とし、市職員が、**当該市における乗合バス向け感染防止対策事業を取り仕切った。**

・再生塾を修了した民間事業者の職員が、塾を通じて学んだ現地調査・データ分析・コスト分析等の手法を用いて社内での提案を行い、**新たな交通モードの実証実験を実施することとなった。**